

2011/3/13

ERC1機

↑ 福島第一原子力発電所モニタリングセンター

2011年 3月13日(日) 23:30 P005/005

福島第一原子力発電所モニタリングセンター

日	時間	正門 ガンマ線 量率(μ Sv/h)	MP-1付近 ガンマ線 量率(μ Sv/h)	MP-2付近 ガンマ線 量率(μ Sv/h)	MP-4付近 ガンマ線 量率(μ Sv/h)	MP-8付近 ガンマ線 量率(μ Sv/h)	中性子線 量率(μ Sv/h)	風向	風速 (m/s)	ダスト、よう素 (Bq/cm ³)	ERC放射 線量に報 告済
H23.3.13	21時00分	4.371	440	440	440	<0.001	<0.001	NW	0.8		<input type="checkbox"/>
H23.3.13	21時10分	4.480	440	440	440	<0.001	<0.001	N	0.5	採取21:00~21:20	<input type="checkbox"/>
H23.3.13	21時20分	4.453	440	440	440	<0.001	<0.001	N	0.5		<input type="checkbox"/>
H23.3.13	21時30分	4.552	440	440	440	<0.001	<0.001	W	0.5	ダスト-2.1×10 ⁻⁴	<input type="checkbox"/>
H23.3.13	21時40分		440	440	440					希ガスよう素 2.7×10 ⁻⁴	<input type="checkbox"/>
H23.3.13	21時50分	4.625	440	440	440	<0.001	<0.001	NW	0.3		<input type="checkbox"/>
H23.3.13	22時00分	4.636	430			<0.001	<0.001	N	0.3		<input type="checkbox"/>
H23.3.13	22時10分	4.622				<0.001	<0.001	W	0.5		<input type="checkbox"/>
H23.3.13	22時20分										<input type="checkbox"/>
H23.3.13	22時30分										<input type="checkbox"/>
H23.3.13	22時40分										<input type="checkbox"/>
H23.3.13	22時50分										<input type="checkbox"/>
H23.3.13	23時00分										<input type="checkbox"/>
H23.3.13	23時10分										<input type="checkbox"/>
H23.3.13	23時20分										<input type="checkbox"/>
H23.3.13	23時30分										<input type="checkbox"/>
H23.3.13	23時40分										<input type="checkbox"/>
H23.3.13	23時50分										<input type="checkbox"/>
H23.3.14	0時00分										<input type="checkbox"/>
H23.3.14	0時10分										<input type="checkbox"/>
H23.3.14	0時20分										<input type="checkbox"/>
H23.3.14	0時30分										<input type="checkbox"/>
H23.3.14	0時40分										<input type="checkbox"/>
H23.3.14	0時50分										<input type="checkbox"/>

2回目モニタリング結果 左

3/12 11:28~12:41

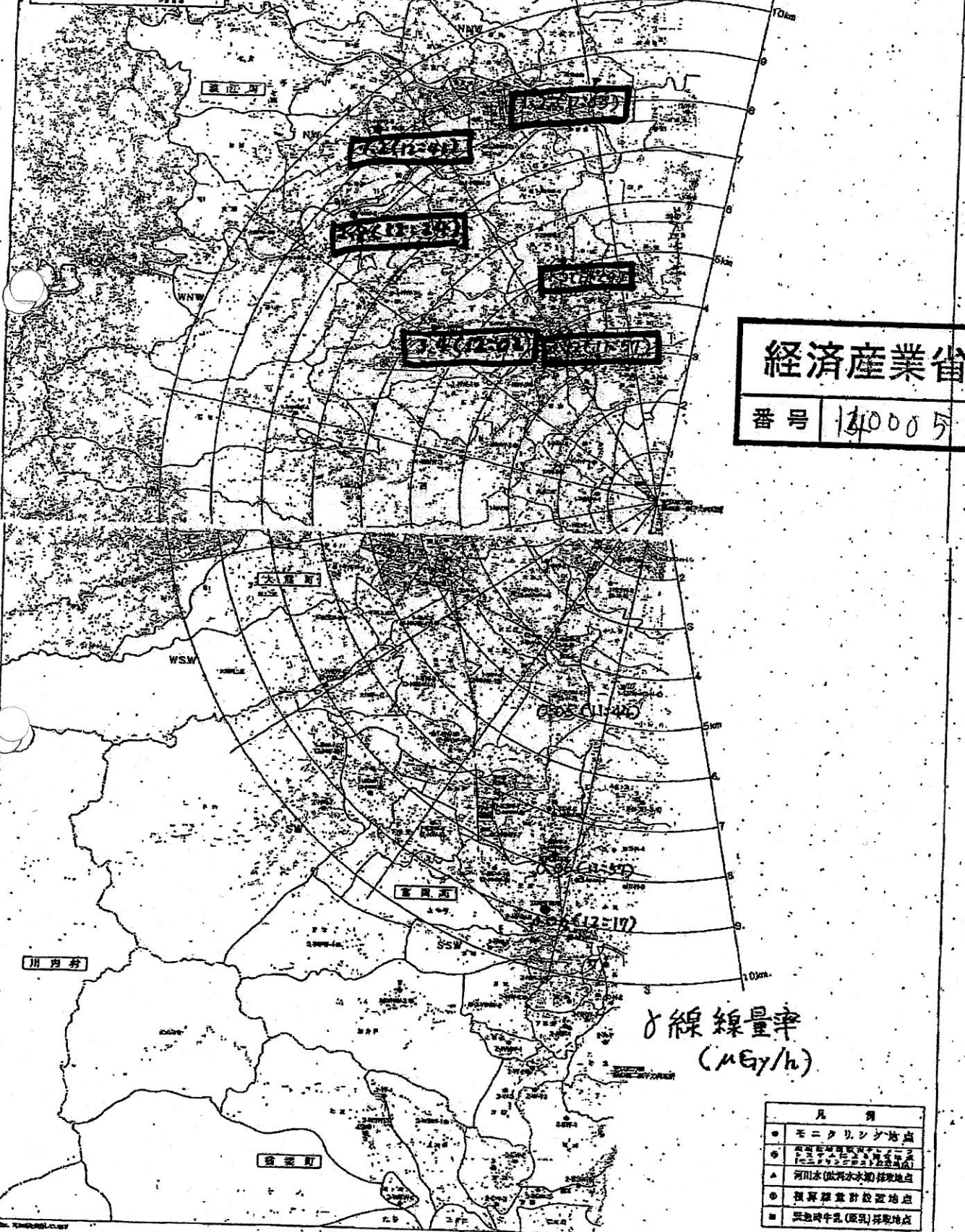
経済産業省

番号 140005

線線量率
($\mu\text{E}\gamma/\text{h}$)

凡 例	
●	モニタリング地点
○	福島県環境放射線測定所 福島県環境放射線測定所 福島県環境放射線測定所
▲	河川水(排水水)採取地点
◇	調査検査計設置地点
■	乳製品牛乳(原乳)採取地点

平成23年12月作成



ERC1様

福島総括班(1)

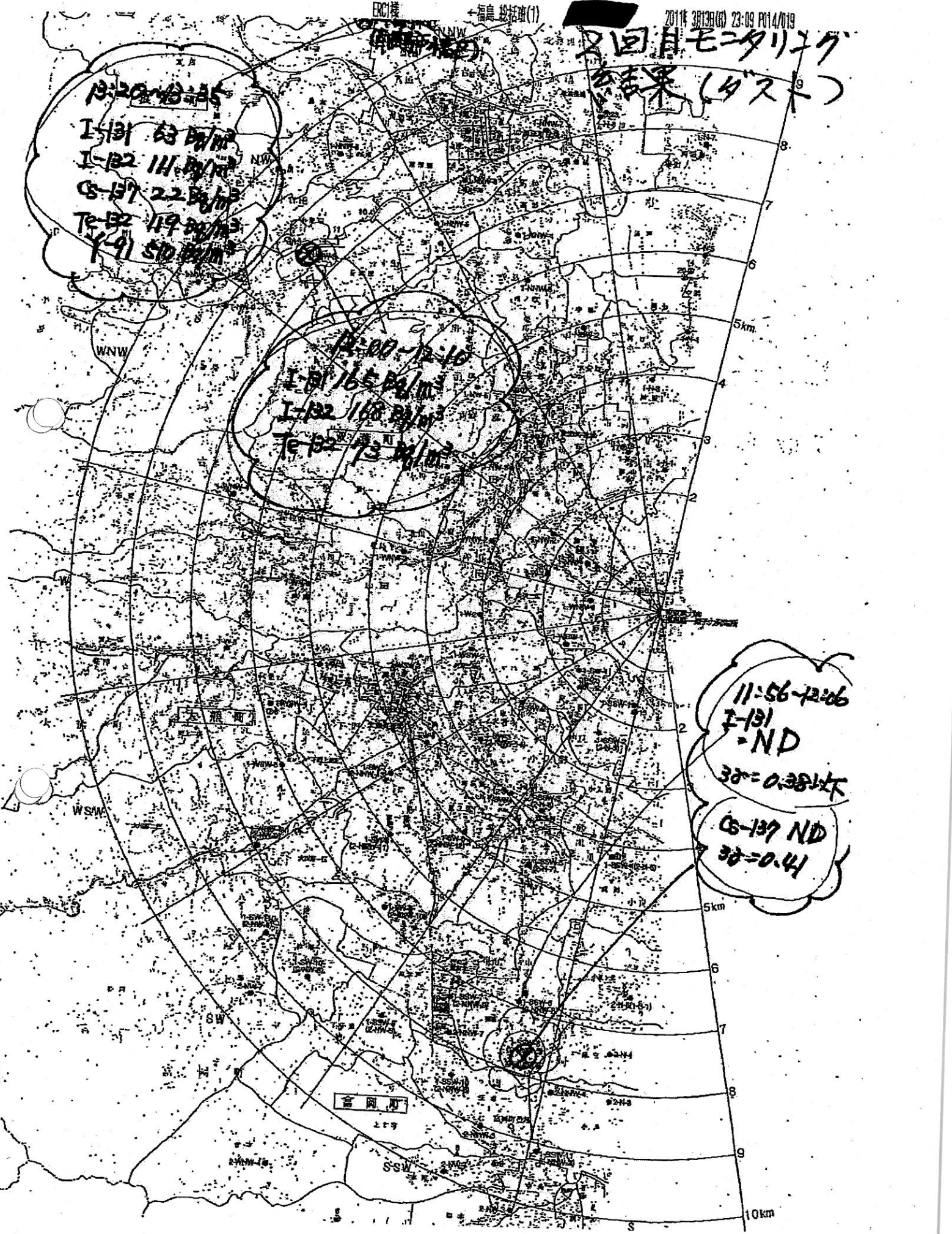
2011年 3月30日 23:09 PM 14/019

又回月モニタリング 結果(ダスト)

10:20-10:45
 I-131 63 Bq/m³
 I-132 111 Bq/m³
 Cs-137 2.2 Bq/m³
 Te-132 119 Bq/m³
 Y-91 50 Bq/m³

12:00-12:10
 I-131 165 Bq/m³
 I-132 168 Bq/m³
 Te-132 73 Bq/m³

11:56-12:06
 I-131 = ND
 3σ = 0.38 Bq/m³
 Cs-137 ND
 3σ = 0.41

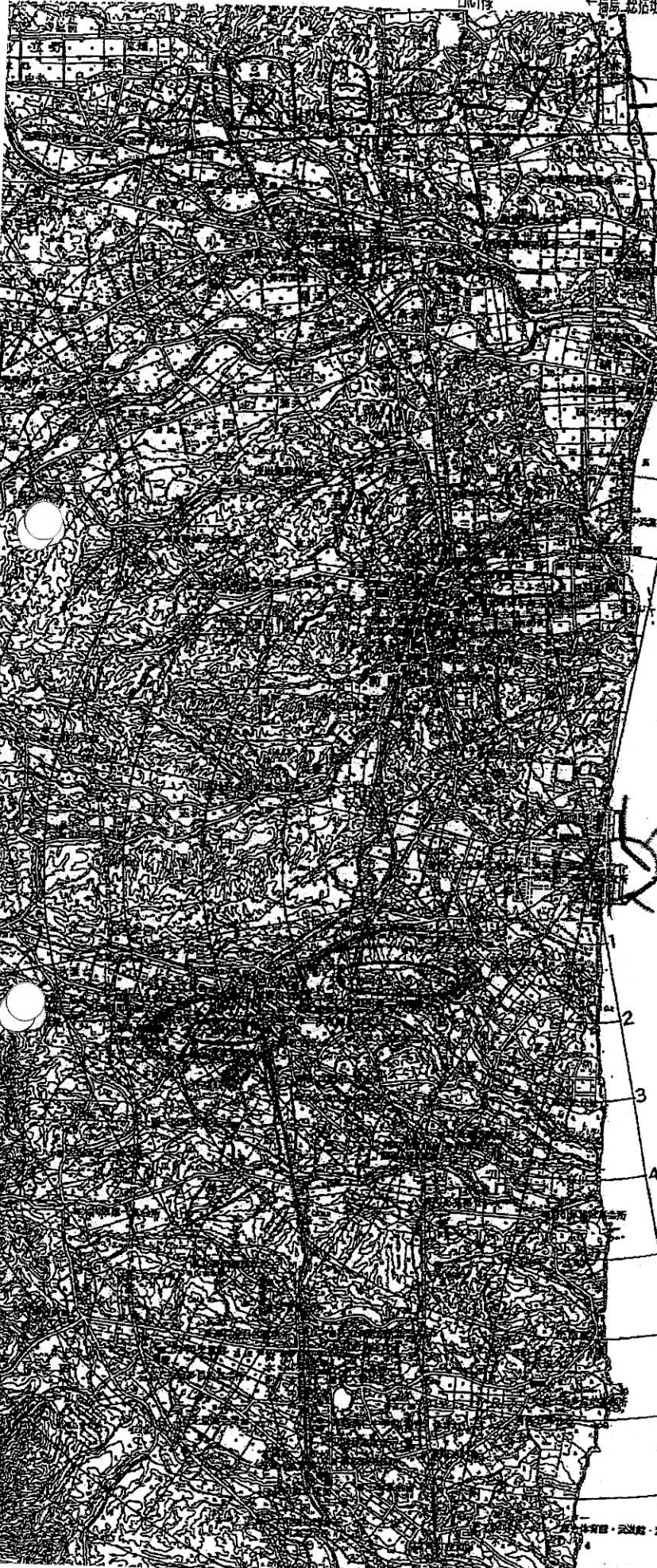


富岡町

10km

〇 (集会所)

自衛隊
3地区
(OFP)



センターハウス

2

3

4

5km

6

7

8

9

センターハウス・災害時避難センター・合同センター



(周辺)

3/12

県モニタリング

3班

①, ②, ③

(ノ線, ヲウ素)

1F

2
3
4
5km
6

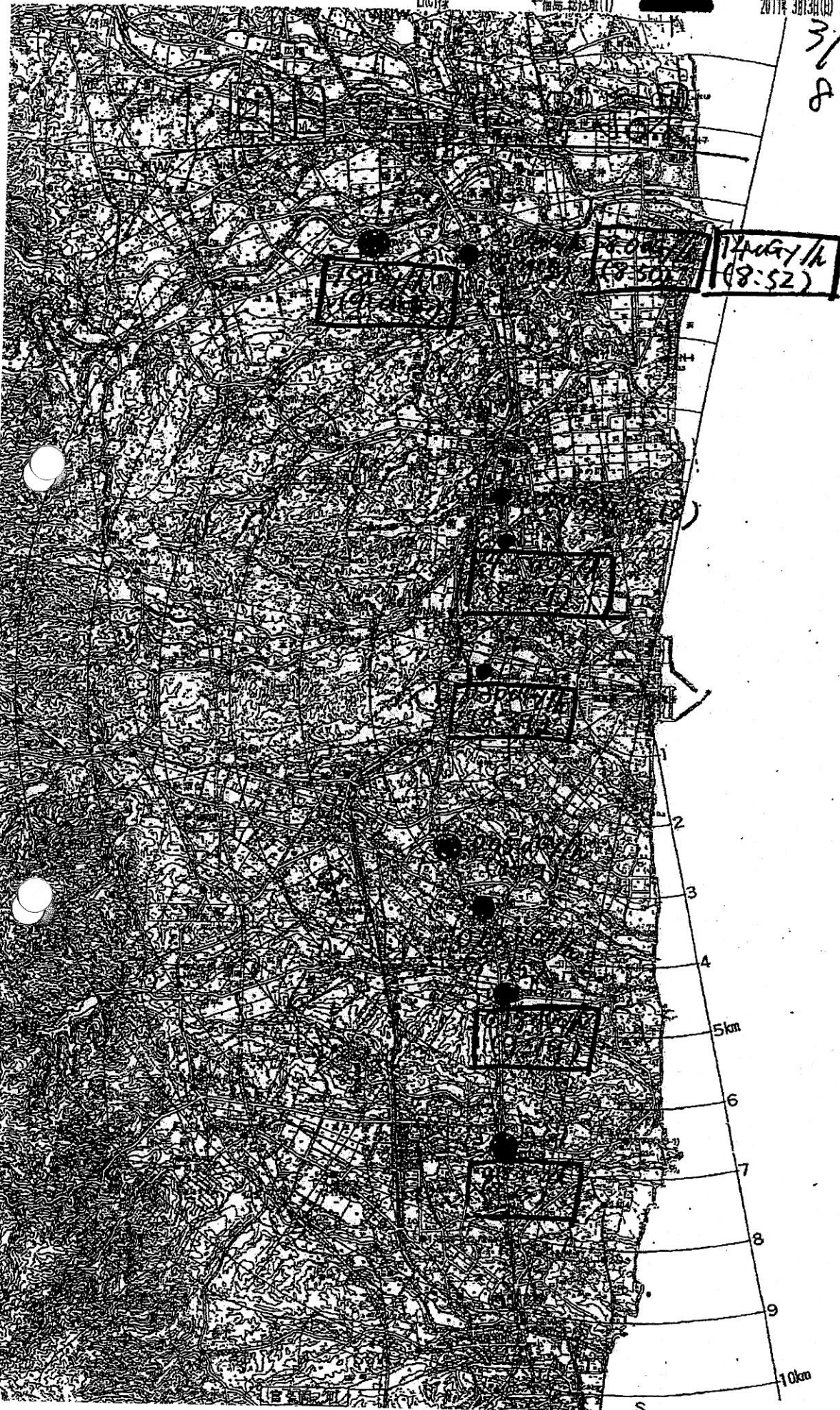


ERC1様

←福島 総括班(1)

2011年 3月13日(日) 23:14 P017/019

3/12
8:09 ~ 9/19



174067/1h
(8:52)

1
2
3
4
5km
6
7
8
9
10km

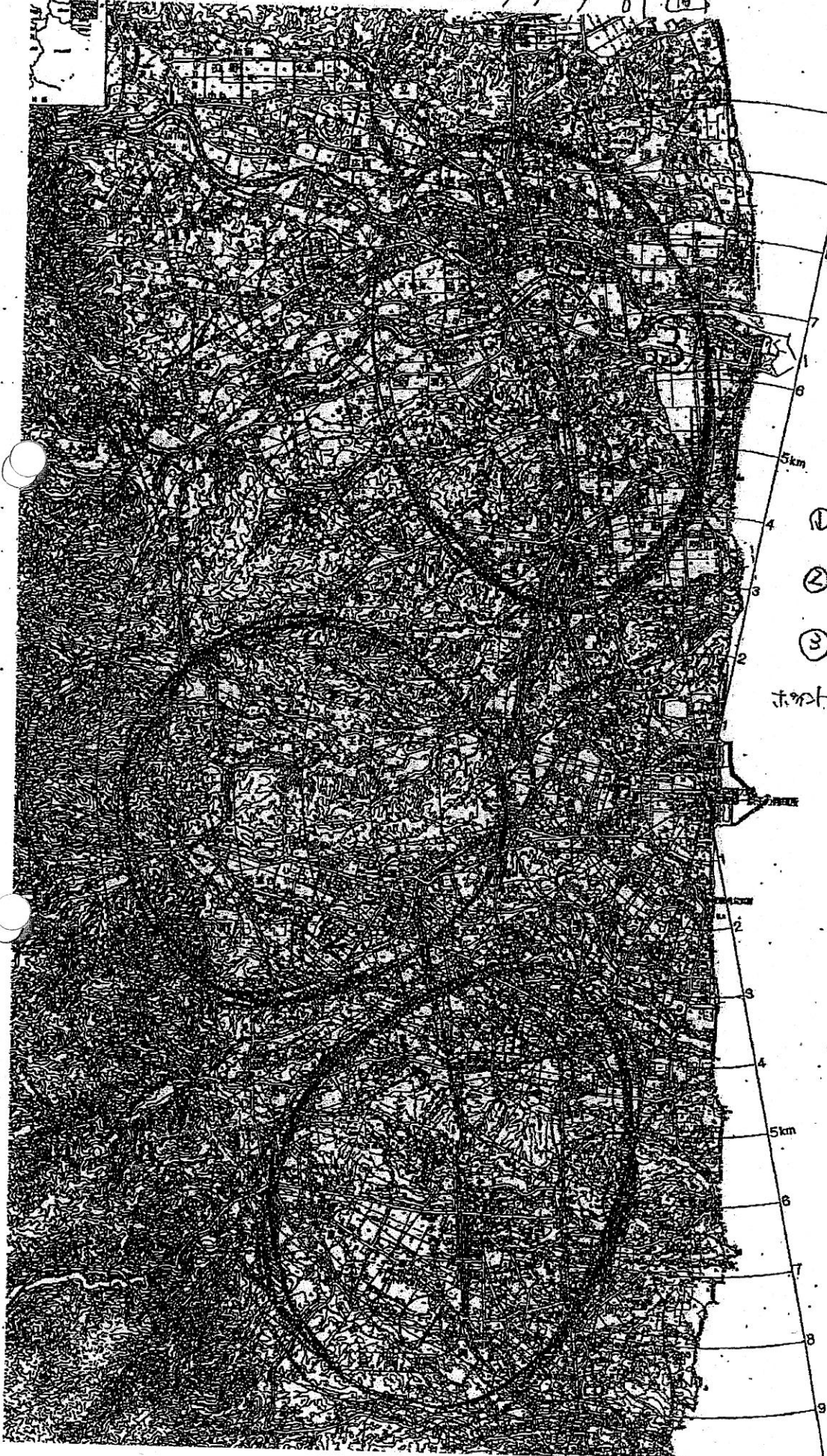
S

ERC1様

福島、松浜班(1)

2017年 3月13日(日) 23:18 P019/019

fix



モータリング
3班に分けて
実施

サ-ルイ 3要素

- ① 3班 1地点
- ② 3 " 1 "
- ③ 3 " 1 "

その他は適宜実施する

左

経済産業省

番号 140126

ERC 医療班状況報告⑩
平成23年3月14日 0時50分時点 (下線が更新情報)
～東北地方太平洋沖地震～

【患者状況】

1. 被ばく患者の措置状況：

福島第一：不明→

- ・「被ばくあり」との情報があったため、照会。モニタリングポストの数値は上昇しているが、健康への影響が出るレベルではない。当該区域にいる従業員への医療提供は不要な状況で、現在行っている屋内退避やマスクなどの防護が有効。
- ・17名顔面汚染。管理区域内から戻ってきて測定したところ、被ばくしていたことが判明したが、健康への影響が出るレベルではない。(現在は緊急時対策室にて待機)
- ・1号機のベント操作に伴い、社員1名が100mSvを超過(106.80mSv)。急性被ばくのレベルではなく、セルフエセットをして作業を行っていたため、内部被ばくのおそれなしで医療的処置は不要。本人も特に症状はない。従って問題なしと考えられたが、その後、頭痛や熱っぽさ等の症状を訴えたことから大野病院に搬送したものの、医師不在のためOFCへ搬送。茨城
- ・双葉厚生病院の寝たきり患者95名を自衛隊ヘリ(60名)及び県が借りた民間バス(35名)でそれぞれ二本松福島県男女共生センター、川俣町済生会川俣病院へ移動。自衛隊ヘリ移動の60名が、双葉高校のグラウンドで待機していた際に1Fの爆発があり、被ばくの疑いがある。
- ・双葉高校のグラウンドで待機していた双葉町の住民約100名がバスで避難した後、12日18:30頃そのうち9名にサーベイメーターによる測定を実施したところ、1名が18,000cpm、1名が30,000～36,000cpm、1名が40,000cpm、1名が40,000cpm弱の値(残り5名はごく小さい値)。県外へバラバラに避難したものの、再び集合し、二本松市福島男女共生センターへ移動。
- ・爆発の前後に現地で給水作業(12日10:00～22:00)を行った自衛隊員5名について、放射能汚染の可能性あり。作業終了後に現場で測定した時には「異常なし」だったが、OFCへ移動後、測定したところ、30,000cpm(除染前)→5,000～10,000cpm(除染後)の値(核種は未同定)。

福島第二：無し

2. その他負傷者情報

○福島第一：

- ・社員2名（軽傷）
- ・協力会社2名（うち1名両足骨折）
- ・行方不明2名（4号タービン建屋内）
- ・急病人1名発生（脳梗塞、救急車搬送、県情報）。
- ・管理区域外にて社員1名が左胸の痛みを訴えて救急車を要請（意識あり）。
- ・1号機付近で爆発と発煙が発生した際に4名が1号タービン建屋付近（管理区域外）で負傷。川内診療所で診療。
- ・社員2名が中央制御室での全面マスク着用作業中に不調を訴え、福島第二の産業医の受診を受けるべく搬送。

○福島第二：1階軽傷1名、2階死亡1名（クレーンのオペレータ、タワークレーンが折れオペレータールームがつぶれ頭に当たった模様）

○JAEA 東海再処理施設：1名けが

事故発生場所：再処理 UC 玄関。

事故概要：発生時間17：28

負傷状況：左コメカミ、赤チン程度

○日本原燃（株）再処理施設：けが人なし

○原子燃料工業（株）東海事業所：けが人なし

○GNF：けが人なし

○東海第二発電所（？）：けが人なし→3名軽傷

発生場所：煙突に宙づり

負傷状況：軽傷（救助され病院搬送→帰宅中）

○浜岡原子力発電所：けが人なし

○女川原子力発電所：1名けが（協力会社）

負傷状況：落下物で足に血のにじみ程度

【医療機関の被ばく患者受入状況】

3月11日

21：25頃 福島県立医科大学付属病院（二次被ばく医療機関）に被ばく患者発生時の患者受入を要請→体制整備済。

21:30頃 放射線医学総合研究所(三次被ばく医療機関)被ばく患者受入体制整備済。(緊急被ばく医療ダイヤル 043-206-3189 [REDACTED] 重度3名程度、軽度10名程度)

22:30頃 今村病院(一次被ばく医療機関)現時点で受入不能。
福島県厚生農業協同組合連合会双葉厚生病院(一次被ばく医療機関)現時点で受入不能。

23:10頃 福島県立大野病院(一次被ばく医療機関)被ばく患者受入体制整備済を確認。

3月12日

7:05頃 福島県近隣自治体防災部局に被ばく患者の受け入れ先機関の照会開始。

【安定ヨウ素剤の状況】

- ・大熊町役場に安定ヨウ素剤24,000錠(2500人分)準備完了、子供用100g粉末、シロップ25g×4瓶、生成水、スポイトも準備あり。
- ・双葉町役場に安定ヨウ素剤錠剤1000個入(16箱)、粉末25g3瓶、生成水4本、シロップ4本を準備。
- ・原安委からは、安定ヨウ素剤を投与するよりは、被ばく状況もないため、遠方に避難するような対応とることを確認。
- ・福島県OFCに富岡町、浪江町、楢葉町、広野町の安定ヨウ素剤の備蓄場所、量、投与できる医師、薬剤師について照会を依頼。
- ・富岡町の備蓄分は、避難場所地域となっている川内村役場に持ち込んでおり、量の管理は県の原安課が行っている。医師、薬剤師は不明。パンフレット(薬の説明等)を合わせて持ち込んでいるとのこと。
- ・楢葉町の備蓄分は避難と同時に運ばれてしまったが、詳細が把握できていない。錠剤に加え、子供用シロップもあった。医師はいるが、安定ヨウ素剤の投与による副作用等を問診できる医師ではない。
- ・県対策本部に対し、富岡町、浪江町、楢葉町の安定ヨウ素剤の備蓄状況等を把握し分量調整をOFCと相談しながら行うように要請。
- ・福島県からの要請を受け、近隣自治体へ安定ヨウ素剤の提供を依頼し、茨城県から提供を受け、福島県で準備した安定ヨウ素剤と合わせて約23万人分の準備が整うよう調整中。23時10分福島空港着。現在郡山自衛隊駐屯地に保管しており、明朝より自衛隊機で輸送し、福島県庁・郡山市総合体育館・郡山高校・相双保健所・いわき市保健所・二本松市男女共生センターに到着する予定。

【救護所の設置状況】

双葉町: 3キロ圏外4カ所に住民を移動し、救護所を開設予定。ヨウ素も準備予定。
内科医1名(一般内科医で安定ヨウ素剤投与後の副作用を判断できる者ではない)のみで4カ所に配置が困難。